

令和5年度 PFSを活用した認知症検診事業 評価検討会 評価結果

【評価検討会について】

- 開催日時: 令和6年1月31日(水) 14時～15時30分
- 評価対象: PFSを活用した認知症検診事業 ①認知機能テスト(自宅版)の実施者数の増加、②生活習慣改善プログラム(3回制)への参加者数の増加
- 受託者: エーザイ株式会社
- 評価検討会委員: 裏面のとおり

(1) 分野評価 ※評価項目⑨は今年度の評価対象外

評価分野	評価得点	評価項目	配点	評価	確定評価点
受託者取組の有効性 【配点20点】	17点	① PFSに係る取組が適切に実施されたか。(検診事業のスケジュールに沿った時期、規模、手法等)	4	3	3
		② 受託者の提案や取組について、創意工夫や独自のノウハウや・強みを活用できたか。	/	/	7
		(1)認知機能テスト(自宅版)の実施者数の増加	4	4	
		(2)生活習慣改善プログラム(3回制)への参加者の増加	4	3	
		③ 対象者への周知(チラシ等)・広報を工夫し、効率的に行われたか。	4	4	4
④ 対象者の問い合わせへの対応は、適切に行われたか。	4	3	3		
成果指標の適正性 【配点8点】	6点	⑤ 設定した成果指標Ⅰ・Ⅱについて ・より適切且つ取り組める目標はなかったか。 ・成果の達成度を測定するためのデータ収集は可能なものであったか。また、受託者の事業活動以外の影響は小さいものか。	4	3	3
		⑥ 成果指標の上限値や段階的支払い額の設定は、取組達成に向けて困難な数値でなかったか。	4	3	3
PFS導入の有効性 【配点12点】	10点	⑦ PFSを導入したことにより、既存事業(委託方式)と比較し、成果改善効果が向上したか。	/	/	7
		(1)認知機能テスト(自宅版)の実施者数の増加	4	4	
		(2)生活習慣改善プログラム(3回制)への参加者の増加	4	3	
⑧ PFS取組経費の範囲内で、効果的・効率的な予算執行が行われたか。	4	3	3		
改善業務の 【配点8点】	1点	⑨ 前回の評価(前年度)における「改善すべき事項」に対して、適切な改善が図られたか。	—	—	—
40点満点	33	点			

(2) 総合評価

評価	B	得点	33/40点満点=82.5%
----	----------	----	-----------------------

《評価結果の見方》

(1) 分野評価

評価項目ごとに4段階評価を行い、全委員の平均点を取る。小数点については、小数第1位を四捨五入した点とする。

評価	評価内容及び基準	
4：優良	既存事業(委託契約方式)と比較し、	期待以上の成果を挙げた。
3：適当		一定の成果を挙げた。
2：課題あり		一定の成果を挙げているが、一部に問題がある。
1：要改善		成果に乏しく、改善が必要である。

(2) 総合評価

各評価分野の得点を合計し、その合計得点を5段階で評価する。

評価	評価内容及び基準
A	総合評価の結果、特に優れている。 (合計得点が、配点の90%以上)
B	総合評価の結果、優れている。 (合計得点が、配点の80%以上90%未満)
C	総合評価の結果、おおむね適正である。 (合計得点が、配点の60%以上80%未満)
D	総合評価の結果、改善が必要である。 (合計得点が、配点の40%以上60%未満)
E	総合評価の結果、相当な改善が必要である。 (合計得点が、配点の40%未満)

令和5年度 PFSを活用した認知症検診事業 評価検討会 委員名簿

No.	役職	氏名	所属等	備考
1	委員	栗田 主一	東京都健康長寿医療センター研究所 副所長	学識経験者
2	委員	重白 光輝	株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 PPP/PFI推進センター 副調査役	専門委員
3	委員	鈴木 裕佳	福祉部 地域包括ケア推進担当部長	区管理職
4	委員	瀬尾 かおり	福祉部 高齢福祉課長	区管理職
5	委員	木内 恵美	福祉部 地域包括ケア推進担当課長	区管理職